

徳泉寺報

とくほほう

むりょうじゆえん

No.007

発行
平成30年5月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区
榴岡 3-10-3

(022) 297-4248

共同墓地「無量寿苑」とペット墓地

徳泉寺の境内墓地の一角に「無量寿苑」と名付けられた共同墓地とペット墓地があります。

十年ほど前、もともとあった無縁墓を改修し作られたのがこの共同墓地です。「無縁」ではなく、「有縁」、徳泉寺を縁として一緒になるみんなのお墓を建てよう、との思いから『倶会一処』の文字を刻み建立されました。同時に「ペットを自分の家のお墓に入れるのが難しいのですが、ペット墓地はありませんか」と尋ねられることが多かったため、境内で埋葬できるようにと、ペット墓地も建てられました。

家族の形や墓地に対する考え方が多様化する現代、様々な理由でこの共同墓地を求められる方が多くいらっしゃいます。もともとお墓を持たない方やご実家が遠方の方。ご家族を亡くされた方だけでなく最近「終活」と称して元気なうちに自分の最期の場所を決めておきたい方なども相談にいらつしやいます。

お墓とはもちろんお遺骨を納骨する場所でもあります。が同時に生きている私たちからみると、自分のご先祖に手を合わせ、自分のルーツに思いを馳せる大事な場所でもあります。そうした場所を子孫に残しておける、ということには私たちが亡くなった後にできる数少ないことのひとつではないか、と思います。そういったことも踏まえながらも、自分の人生を考えたとき、終わりの場所が決まっているということは安心して生きられるひとつの足場になるのかもしれない。

四月十五日【春の法要】勤修

毎年四月中旬の日曜日、年に一度の共同墓地・ペット墓地の合同法要として「春の法要」を勤修しています。ご縁ある人々が集まり、亡き人やペットを偲び仏の教えに耳を傾ける、そんな日です。今年は約四十名の方にご参列いただきました。

まずは『正信偈』同朋奉讃式をお勤めし、その後住職および前任職法話がありました。本堂のお荘厳の中の仏花について、どうして生花をお供えするのか、そしてどうしてご本尊の方ではなく私たちの方に向けてお供えされているのか。それは私たちが限りある生命を生きているのだ、ということとその姿として示してくれているという意味があるのだ、というお話しでした。

その後、境内にある墓地に移動し、共同墓地とペット墓地の前でお勤めをして参列の方々にお焼香をしていただいて法要は終了しました。法要終了後は希望者のみ本堂の隣の棟の同朋会館にてお茶を飲みながらお話ししました。大半が残ってくださったのはじめましての方からお久しぶりの方まで俱（とも）に同じお墓に入る約束をしていらっしゃる者同士が和やかに歓談されていました。



共同墓地「無量寿苑」



ペット墓地



春の法要の様子